区分　製造

製造職リーダー育成プログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容:
e-ラーニング(テキスト＋動画)による知識の習得及び、集合研修(CAD・3Dプリンタ実習)による知識のアウトプットで、製造業界のリーダーに必要な要素を学習する。

訓練の対象となる業種・職種等:
ITスキルを駆使して生産性向上策を提案でき、製造現場に必要なスキルを習得し、次世代のものづくり事業を担うリーダーを目指す人材、またはリーダーとして活躍している人材。

(受講のメリット)

・IoT、プログラミング(Pythonなど)3次元CAD操作、3Dプリンタまで製造業界にとって必要な知識・技能を学ぶことができる。
・Raspberry Piなど機材の使用方法を身につけることができる。
・受講生同士の交流によりネットワークが構築できる。

(実施した時の環境等)

訓練の内容:・e-ラーニング(テキスト＋動画):123時間
・集合研修(CAD、3Dプリンタ等):18時間　総訓練時間141時間
募集期間　:7月10日～9月16日
応募人数　:25人
受講人数　:20人
受講日時　:9月16日～1月23日、うち集合研修を3日間
(今回の集合研修は12月19日、1月16日、1月23日の計3日間、10:00～17:00まで実施)
受講料　　:教育訓練プログラムの実証のため無料

社会人受講生のための配慮:収録動画によるe-ラーニング、郵送やクラウドによる資料共有・課題提出の方法を中心に実施。

区分　製造

（訓練を実施する上で注意する点）

訓練の内容：
講演が可能な専門家の確保。受講人数が多いほどサブ講師を増やし受講生へのフォローを行うことができる体制が必要。

受講形態・訓練時間数：
いまの社会的状況化のもと受講生の負担軽減のため、実習が必要な科目のみをピックアップして集合研修を実施し、プログラム全体を通信学習中心の受講形態にすることが望ましい。

（訓練を実施する上で推奨される取り組み事例）
受講生同士が集合研修を通し交流を深めていく中で、プログラム終了後も持続するようなネットワークを築くことも本プログラムの重要な目的の一つである。そのため、製造業界の中でも業種や役職等に偏りなく受講生を募集することや、交流会を開催することも有効である。

（受講者等からの声）
・動画を見ながらの学習は初めてだったが、何度も見返すことができ、内容もわかりやすく良かった。
・すぐに勉強を開始できる教材が準備してあり、わからないところは、メールで回答いただきスムーズに演習ができた。
・製品開発業務に携わっているが、センサハットを使って、実験の効率化を図りたいと考えている。
・AutoCADは、仕事で使用していたが、今まで知らなかった機能が多くあり大変勉強になった。
・講師の方が2人おられたので、わからないところを聞きやすかった。

（受託事業者）学校法人　穴吹学園

（詳細・問い合わせ先）
厚生労働省HP：URL
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/program_development_text.html#manufacturing2
厚生労働省人材開発統括官付参事官室（人材開発政策担当）政策企画室事業係　０３－５２５３－１１１１（内線５６４８）